

予報期間 9月7日から9月13日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 9日から10日にかけて、前線が東シナ海から日本海にのびる。
- 前線は、11日は本州付近に停滞し、12日は本州南岸付近に南下する。
- 11日から12日にかけて、高気圧が日本海から千島近海に移動する。
- 13日は、低気圧が日本海に進む。

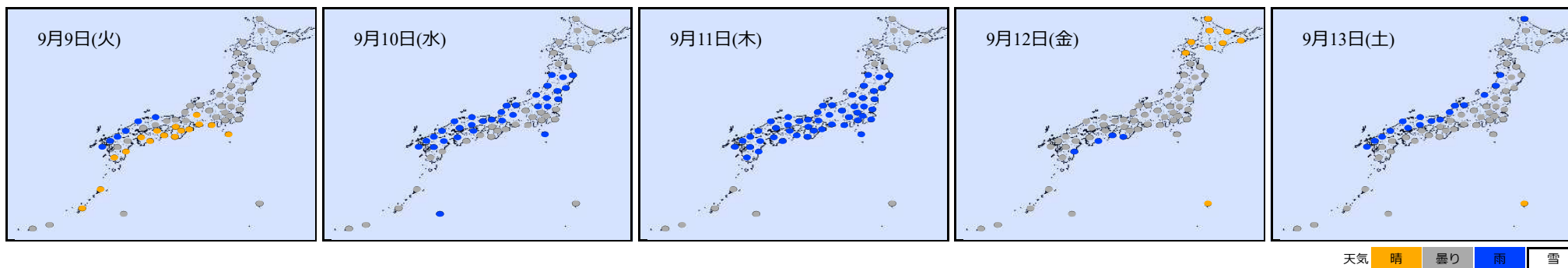
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日頃は、前線に暖かく湿った空気が流れ込むため、西日本日本海側を中心に大雨となる所があり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 期間の前半は、東日本と西日本、沖縄・奄美では気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

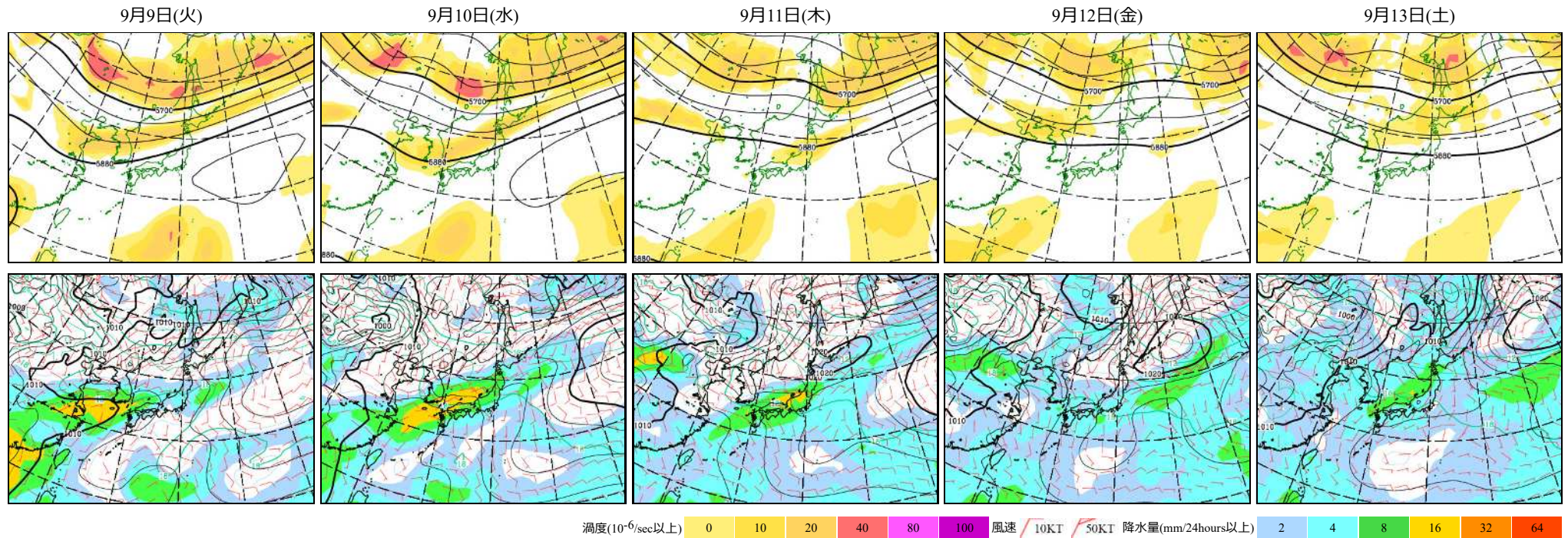
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

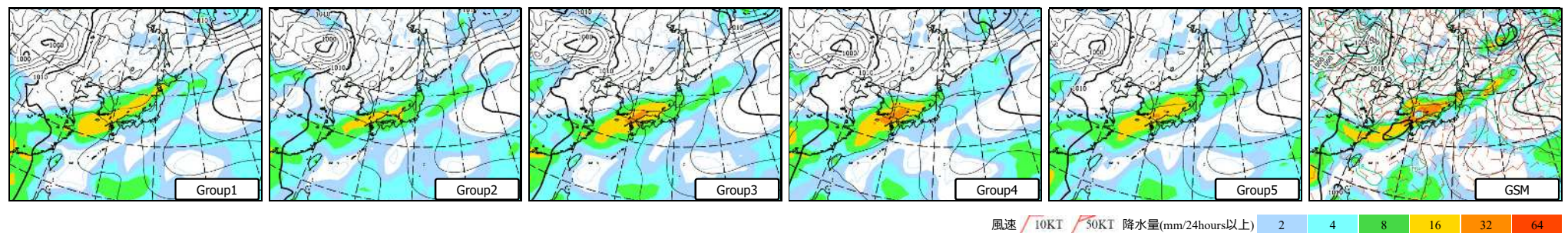


- 北海道地方は、雲が広がりやすく雨の降る所があるが、12日は晴れる所が多い。
- 東北地方と東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月10日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、10日までは大きな初期値変わりはない。11日以降は5700m付近の流れに初期値変わりが見られる。地上の気圧配置の予想は、11日は千島近海の高気圧が明瞭になり、その後の東進がやや早くなった。
- 初期値変わりをしているモデルもあるが、トラフやリッジの東西の流れは比較的揃っている。10日はトラフの深さに違いがあり、地上の前線の位置にもモデル間の差が見られる。13日に日本付近に気圧の谷が進む予想は揃っている。
- 10日は、東シナ海から日本海に前線がのびる予想をするモデルが多い。ENSも同様の予想をするメンバーが多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。